

**令和3（2021）年
観光客の動向等に係る調査の結果について**

この度、令和3（2021）年の京都市における観光客[※]の動向等について、調査結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

※ 観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入洛した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入洛した人全てを含みます。

＜コロナ禍において可能な範囲での調査を実施＞

令和3年の京都市における観光客※の動向等について、次のとおり調査結果を取りまとめた。

本調査は、例年発表している「京都観光総合調査」について、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、観光客への面接調査等を可能な範囲で実施したものである。

※ 観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入浴した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入浴した人全てを含む。

＜主な調査項目＞

- (1) 宿泊客数、修学旅行生数については、本市宿泊税データ、観光庁から提供される宿泊客数データ及び市内宿泊施設へのアンケートの活用により推計。
なお、全国統一基準に基づく観光客数、観光消費額等の数値は、コロナ禍の影響により算出できなかった。
- (2) 日本人観光客に係る観光消費動向調査、満足度調査及び実態調査の結果については、第4四半期（11月）の調査結果を掲載（通年の調査結果でないため「参考」として記載。）。
- (3) 令和3年からは、新たに持続可能な観光に対する意向調査を開始（日本人を対象とした調査のみ実施。通年の調査結果でないため「参考」として記載。）。

＜令和3年 観光客の動向等に係る調査結果（topics）＞

令和3年は、数次にわたる緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の発出により、長期にわたり行動が制限される一年となった。

※ R3.1/14～2/28 緊急事態宣言、4/12～4/24 まん延防止等重点措置、4/25～6/20 緊急事態宣言、6/21～7/11 まん延防止等重点措置、8/2～8/19 まん延防止等重点措置、8/20～9/30 緊急事態宣言

1 宿泊客数（実人数）は516万8千人（令和2年比▲2.7%、令和元年比▲60.7%）

- **宿泊客数（実人数）は令和2年比で微減、コロナ禍前令和元年比では▲60.7%となり、依然として厳しい状況が続いている。**
- 宿泊客数のうち日本人宿泊客数については、令和2年比で+5.2%の511万4千人とプラスに転じた。
- なお、延べ人数ベースで全国と比較すると、国全体における日本人の宿泊客数は令和2年比で▲0.2%と横ばいとなっている中、本市は延べ人数ベース+5.9%という結果となった。

2 外国人宿泊客数（実人数）は5万4千人（令和2年比▲88.0%、令和元年比▲98.6%）

- 令和2年は3月まで訪日外国人が入国できる状態であったこともあり、令和3年は、令和2年比で更に厳しい▲88.0%に。国による入国制限の影響に伴い、**令和元年比では大幅なマイナスが続いている。**
- ※ 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

3 修学旅行生数（実人数）は24万6千人（令和2年比+56.7%、令和元年比▲65.1%）

- 10月から全国的に緊急事態宣言が解除となった後、それまでに予定されていたものも含め、全国から修学旅行生が訪れ、結果として**令和2年比+56.7%と大幅にプラスに転じた**が、令和元年比では依然として厳しい状況が続いている。

1 宿泊客数 (P.7)

区分	令和3年	令和2年	令和元年
実人数	516万8千人	531万0千人	1,316万6千人
延べ人数	727万7千人	773万2千人	2,125万3千人

平均宿泊日数 令和3年 1.41泊, 令和2年 1.46泊, 令和元年 1.61泊

※ 日本人と比較して宿泊日数が長い外国人宿泊客が大きく減少したことにより、全体の平均宿泊日数も減少。

(内訳)

(1) 日本人宿泊客数

区分	令和3年	令和2年	令和元年
実人数	511万4千人	486万1千人	936万7千人
延べ人数	715万3千人	675万3千人	1,295万9千人

(2) 外国人宿泊客数

区分	令和3年	令和2年	令和元年
実人数	5万4千人	44万9千人	379万9千人
延べ人数	12万4千人	97万9千人	829万4千人

2 修学旅行生数 (P.13)

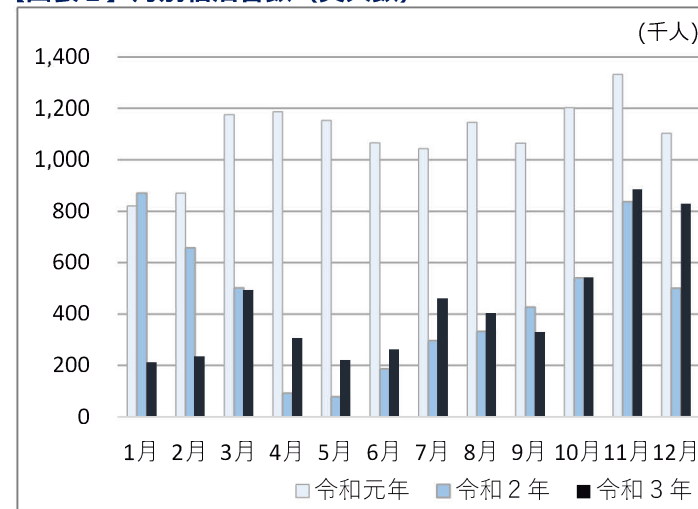
区分	令和3年	令和2年	令和元年
実人数	24万6千人	15万7千人	70万4千人
延べ人数	35万6千人	23万2千人	121万4千人

平均宿泊日数 令和3年 1.45泊, 令和2年 1.47泊, 令和元年 1.73泊

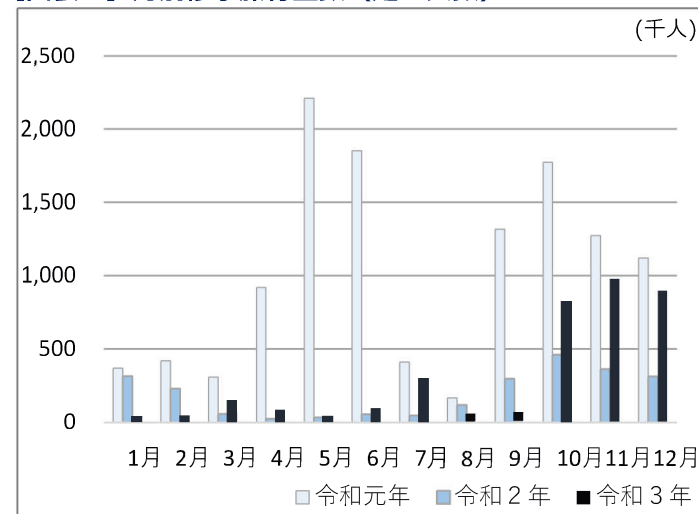
(参考) 小・中・高校の割合

区分	令和3年	令和2年	令和元年
小学校	29.3%	33.2%	14.6%
中学校	50.7%	54.1%	67.9%
高校	20.0%	12.7%	17.5%

【図表1】 月別宿泊客数 (実人数)



【図表2】 月別修学旅行生数 (延べ人数)



※ 月別の実人数は、分析に必要なデータが得られなかったため集計していない。

1 観光消費動向調査 (P.16)

日本人観光消費額単価

宿泊客 **57,175円**, 日帰り客 **10,898円**

※ これらの数値はいずれも第4四半期（11月）に限った調査結果であり、令和元年以前の数値と時系列等による比較はできない。

2 日本人観光客満足度調査 (P.18)

京都観光の総合満足度

京都観光の満足度（大変満足～やや満足） **95.1%**
 「残念なことがあったか」とお聞きしたところ、
 「残念なことがなかった」との回答 **54.3%**

3 日本人観光客実態調査 (P.24)

入洛利用交通機関

鉄道 **77.2%**, バス **9.4%**, 車 **13.4%**

訪問回数

初めて～9回目 **41.9%**, 10回以上 **58.1%**

出発地

近畿地方 **36.6%**, 中部地方 **20.5%**, 関東地方 **28.0%**

宿泊日数

1泊 **48.0%**, 2泊 **35.2%**, 3泊 **9.3%**

入洛動機 (複数回答)

寺院・神社, 名所・旧跡 **73.8%**
 桜・紅葉等の自然 **71.2%**
 飲食 **32.7%**
 町あるき **29.1%**

【図表3】日本人観光消費額単価（円）

区分	宿泊	日帰り
市内交通費	4,914	1,170
宿泊代	22,035	—
買物代	10,393	4,118
飲食費	15,090	3,944
入場料・拝観料	4,020	1,388
その他 (文化体験費用等)	722	278
合計	57,175	10,898

(参考) 「入場料・拝観料」, 「その他のうち, 文化体験費用」の消費者に係る平均消費額単価（円）

区分	宿泊	日帰り
入場料・ 拝観料		
美術館・博物館	3,679	2,142
その他	4,303	2,072
その他のうち, 文化体験費用	4,138	2,724

4 日本人観光客 持続可能な観光に対する意向調査 (P.40)

令和3年から開始!

旅行中はなるべく徒歩, 自転車, 公共交通を使いたいと考えている観光客の割合 **56.0%**

文化や文化財の維持に貢献したいと考えている観光客の割合 **40.5%**

訪問先の地域を思いやる行動を取られた観光客の割合 **71.8%**

環境に配慮した行動をされた観光客の割合 **89.0%**

飲食・買い物の際に京都産の食材や商品を選ばれた観光客の割合 **73.0%**

【参考2】本市独自推計による参考値

対象期間：令和3年1月～12月

<観光客数、観光消費額及び経済波及効果に係る独自推計（参考値）>

- 観光客数、観光消費額及び経済波及効果の算出には、全国統一基準に基づき四半期全ての観光客への面接調査の結果が必要となるが、令和2年同様、面接調査が実施困難な時期があったことから、令和3年についても全国統一基準による算出はできなかった。

※ これらの数値はいずれも本市独自推計であり、令和元年以前の数値と時系列等による比較はできない。

- しかし、新型コロナウイルス感染症が京都観光に与えた影響を概観するため、今回、参考として、**本市で独自に推計**を行った。

1 観光客数（参考値）

区分	令和3年	令和2年	(参考)令和元年 京都観光総合調査結果
観光客数	2,102万人	2,159万人	5,352万人

【観光客数の推計方法】

各年の宿泊客数を、令和元年「京都観光総合調査」における宿泊率で割り戻して推計

2 観光消費額、経済波及効果（参考値）

区分	令和3年	令和2年	(参考)令和元年 京都観光総合調査結果
観光消費額	4,457億円	4,535億円	1兆2,367億円
経済波及効果	4,885億円	4,980億円	1兆3,569億円

【観光消費額の推計方法】

令和元年「京都観光総合調査」における観光消費額に、国調査における日本人観光客に係る消費単価※の令和元年比及び上記により推計した観光客数の令和元年比を乗じて推計

※ 便宜上、日本人の単価の変動率を採用。

【経済波及効果の推計方法】

令和元年「京都観光総合調査」における経済波及効果に、上記により推計した観光消費額の令和元年比を乗じて推計

【参考3】今後の京都観光の方向性

＜持続可能な京都観光の実現＞

- 令和4年6月10月付けで観光目的の訪日客の受入が再開されたほか、現在、国において、水際対策の段階的な緩和や、需要喚起策である地域観光事業支援（都道府県版GoTo）の全国拡大など、旅行需要の回復に向けた様々な検討が進められている。
- 観光の回復に当たっては、京都観光に関わる全ての皆さまの安心・安全をしっかりと確保し、快適に観光でき、また、安心してお迎えができる環境を整備することが不可欠である。
- 併せて、これまでから進めてきた混雑対策やマナー啓発等の観光課題対策の一層の充実や、京都観光モラルの普及・実践、観光に対する市民の皆様との共感の輪の拡大、これらを前提とした事業者の下支えや観光の回復に向けた需要喚起策を図り、京都観光に関わる全ての方の満足度の向上を目指す。
- これらの取組を着実に推進し、**市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、SDGsの達成に貢献し、感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光**を実現するとともに、都市の成長戦略に掲げる目標の達成にも貢献する。

＜京都観光の回復と、持続可能な観光の実現に向けた主な取組（令和4年度）＞

1 市民・観光客双方の安心・安全の確保

- ・「きょうと新型コロナ医療相談センター」における外国人観光客の相談対応
- ・SNS、公式ホームページ、海外情報発信・収集拠点を通じた安心・安全情報の発信
- ・混雑対策の推進による、3つの密の回避の促進
- ・安心・安全確保策も含む助成制度によるMICE開催支援

2 観光課題対策

▶ 混雑対策

- ・朝・夜観光の推進、密を避けた事前予約の推進
- ・多様なエリアにおける魅力発信
- ・とっておきの京都プロジェクト実証事業支援 **【R4新規】**
- ・交通事業者のバス車内のリアルタイム混雑情報の提供に係る取組を支援する補助事業の創設 **【R4新規（5月補正）】**
- ・パークアンドライド等の自動車流入抑制の取組、公共交通を利用した観光の促進
- ・ビッグデータ等を活用した混雑状況・観光快適度の充実発信、多言語化

▶ マナー啓発

- ・国内外の旅行業界等へのマナー啓発協力要請
- ・インバウンド向けマナー啓発用コンテンツの作成
- ・SNSや公式ホームページ等を通じたマナー啓発の充実

3 京都観光モラルの普及・実践、観光に対する共感の輪の拡大

▶ 京都観光モラルの普及・実践

- ・京都観光モラル特設サイトの開設等による露出強化
- ・持続可能な京都観光を推進する優良事業者表彰(仮称)の創設 **【R4新規】**
- ・宿泊施設等と連携した京都経済の域内循環促進事業 **【R4新規】**

▶ 観光に対する市民の共感の輪の拡大

- ・市民しんぶんやSNS等を活用した、観光の効果の見える化の推進

4 これらを前提とした事業者の下支え、観光の回復に向けた需要喚起策

- ・中小企業等総合支援支援補助金の創設 **【R4新規（6月補正）】**
- ・市内の需要喚起のための宿泊観光推進事業 **【R4新規（6月補正）】**
- ・京の夏の旅、京の冬の旅等の各種イベント、キャンペーン
- ・京都ならではの修学旅行、MICEの誘致
- ・SNSや公式ホームページ等を通じた観光情報の発信
- ・きょうと魅力再発見旅プロジェクト（地域観光事業支援）（京都府）

【参考4】京都観光総合調査（観光客の動向等に係る調査）調査内容【概要】

- 京都市では、「京都観光総合調査」（観光客の動向等に係る調査）について、昭和33年から、60年以上の長きにわたり、内容を充実させながら実施してきた。現在の調査内容は以下のとおり。
- これに加え、令和3年からは新たに「京都観光に関する市民意識調査」及び「京都観光事業者実態調査、京都観光従事者実態調査」（DMO KYOTO）を実施している。

観光客の定義

観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入洛した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入洛した人全てを含む。

観光客数調査

※ コロナ禍の影響により中止

観光客数については、「観光入込客統計に関する共通基準（平成21年12月観光庁策定）※」（全国統一基準）に基づく手法により調査し、各月及び総数を推計。

※ 京都市の都市特性を反映させながら全国統一基準にも合致する統計手法で実施。

共通基準	観光地点を訪れた観光入込客数から推計。
本市の手法	京都市域全体を一つの観光地点と見立てて交通手段別（鉄道、バス、車）の入込客数と各交通手段の利用者への聞き取り調査を基に、観光客数を推計。

宿泊客数、修学旅行生数調査

宿泊客数、修学旅行生については、本市宿泊税データを基に、観光庁から提供される宿泊客数データや京都市内の宿泊施設へ依頼する宿泊客に関するアンケートを活用しながら、数値を推計。

観光消費動向調査、観光客満足度調査、観光客実態調査、持続可能な観光に対する意向調査

※ コロナ禍の影響により日本人観光客を対象とした第4四半期（11月）調査のみ実施

調査時期(年4回)、曜日、時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出、郵送回答や面接聴取の方法により調査。

区分	例年の調査	R3秋調査（参考値）
調査時期	冬期（2月）、春期（5月）、夏期（8月）、秋期（11月）	秋期（11月）
調査場所	【日本人】京都市内の主要な鉄道駅、観光駐車場等、全13箇所 【外国人】京都市内の主な観光施設等、全6箇所	【日本人】左記13箇所
調査項目	居住地、利用交通機関、目的、日数、性別、年齢、動機、市内訪問地、観光消費額、感想、満足度 など	同左
サンプル数	【日本人】 4,400 【外国人】 1,600	【日本人】 1,100